

グループ名 ・代表者名	白石 草 (Our Planet TV)	助成金額	30 万円
連絡先など	imfo@ourplanet-tv.org		
助成のテーマ	福島原子力発電所事故をメディアはどう伝えたか ～成熟した市民社会に資するメディア環境形成へ向けて～		

【調査研究の概要】

本調査研究では、福島第一原発事故を報じる（あるいは、関連情報を発信する）様々な立場のメディア（あるいは市民メディア当事者）の声を集めることで、

- (1) 日本のマスメディアが抱える問題点を明らかにするとともに
- (2) NPO・NGO、市民によるメディアの可能性を探りたい。

また同時に、ここまで大きな事故が起こりながらもなお、他国に比べて市民による「運動」が高まらない背景には、メディアの問題がどう関わっているのかを考察していく。

これらを詳細に検証することで、成熟した市民社会を形成させるための、今後のメディア環境の在り方について提示したい。

【調査研究の経過】

- (1) 2011 年 4～ 「20 ミリシーベルト問題」に限定して記事データ収集/分析
- (2) 2011 年 6～10 月 メディア接触と原発に関する意識調査
- (3) 2011 年 8～12 月 マスメディア内部で働くジャーナリストおよび発信を始めた市民らにインタビューを実施
- (4) 2011 年 9 月 9 日 シンポジウム『メディアをうらむな、メディアをつくれ開催
木下黄太（福島第一原発を考えます）・澤井正子（原子力資料情報室）・毛利嘉孝（東京藝術大学准教授）
→ 現在のオルタナティブ・メディアの振興のきっかけともなった、アメリカ合衆国の
「9. 11」同時多発テロ事件から 10 周年を契機に、以後のマスメディアの動きや、オルタナティブ・メディアへの期待を振り返る。福島第一原子力発電所事故をめぐる報道のあり方も検証する。
- (5) 2011 年 10～12 月 収集データの分析
- (6) 2012 年 1～3 月 番組制作
- (7) 2012 年 3 月 11 日 番組「メディアは福島原発事故をどう伝えたか」

【現在までの成果と今後の展望など】

6 月に実施したメディア接触と原発に関する意識調査では、福島第一原子力発電所がメルトダウン（炉心溶融）した時期について、ネットで情報収集をしている層の正解率は 60% に達していた一方で、テレビを中心に情報を得ている人の正解率は 34% に過ぎなかった。また、原発事故後、情報発信をはじめた市民のほとんどが、マスメディア、とりわけ、テレビ局への不信感から活動をスタートしている。原発事故の報道あるいはコミュニケーションをめぐる、マスメディアと市民の双方で起きている状況を把握するとともに、日本のあるべきコミュニケーション（情報通信）政策について考察したい。

資金計画の概要（金額単位：千円）			充当する資金の内訳		
支出費目	内 訳	支出金額	高木基金の 助成金を充当	他の助成金 等を充当	自己資金
旅費	東京⇄福島 5 往復 8,190 円×2×5 ほか	126	80		48
資料費	新聞・雑誌購入 1 万円×12 か月	120	120		0
機材・備品費	HDD 外付け独立型 1. 5TB 7200rpm	50	0		50
会議費	5000 円×10 回	50	0		50
協力者謝礼など	謝金 2 万円×3 人	60	30		30
その他	会場費など	95	30		65
合 計		1,303	300		1,003

参考文献＝10 月 5 日発売「自由報道協会が追った 311」（扶桑社）共著「一人のつぶやきから始まった～子ども全国ネットワーク」
11 月 7 日発売「メディアをつくる～小さな声を伝えるために」（岩波書店）白石草